

来て

Kite

Mite

見

Niigatakenritsudaigaku

新潟県立大学!



地域振興は人づくりから— 地方に根ざし、世界にはばたく新潟県立大学

University of Niigata Prefecture

新潟県立大学広報誌

2012.12 No. 8

新潟県立大学ニュース



CONTENTS

海外留学体験記	2
海外研修報告	3
4年生ゼミ紹介	4
授業紹介 実習・実験紹介	5
連花祭	6
学生の活動	8
図書館・教員の一冊	9
思い出の旅先	10
学食完成・東京サテライト	11

■新潟県立大学の基本理念

○国際性の涵養

東アジアをはじめとする世界の人々との社会的・文化的交流を促進し、グローバルな視点からの教育研究を進めます。

○地域性の重視

郷土の自然・文化への理解をもって地域づくりや地域の共生を担う人材を育成し、地域社会に開かれた大学を目指します。

○人間性の涵養

豊かな人間性を培うために、学生一人ひとりに対してきめ細やかな教育を行い、学生同士が切磋琢磨し学び合う環境をつくります。

■学部・学科構成

男女共学 四年制

国際地域学部	国際地域学科	入学定員160名
人間生活学部	子ども学科	入学定員 40名
	健康栄養学科	入学定員 40名

海外留学体験記



Hawaii

ハワイ

国際地域学科 2年 岩下香織

3週間という限られた時間の中で、いかに自分の英語力を向上させられるか。

私達は放課後毎日バスに乗ってとにかくいろんな所へ出掛けた。観光地を楽しむのはもちろんのこと、学校の授業では聞くことのできないネイティブのリアルな会話を聞き、様々な人とコミュニケーションをとる最高の機会であると考えたためだ。結果、自分たちの行動できる範囲で最大限にハワイを楽しむことができ、また英語を学びもっと意思疎通ができるようになりたいという意欲を掻き立てるいい経験となった。



China



中国

国際地域学科 3年 佐藤麻依

夏休み中の約1カ月間、中国語研修に参加しました。はじめの1週間は北京に滞在し、古代建造物や都会的な地域を訪れ、中国の歴史と近代化を肌で感じました。後の3週間は黒龍江大学の寮で生活し、留学生向けの授業を様々な国の学生と一緒に受けていました。多国籍の学生と中国語を共通語として使う環境が刺激的でした。授業も日常も中国語漬けの生活に最初は戸惑いましたが、その分、言語以外にも多くのことを学び、吸収することが出来ました。

韓国

国際地域学科 3年 山田燎亮

2011年9月から2012年9月までの1年間、私は韓国外国語大学で毎日韓国語を学び、日本では見るることのできない韓国の文化を毎日体験してきました。その中で私が行ってよかったと最も強く感じることは、韓国人や様々な国からの人々、そして私と同じく留学に来ていた日本人などたくさんの人々と出会えたことです。韓国語、英語、日本語を通じてたくさんの人々と考えを共有できたことで、私自身の価値観や異文化理解をする上での心の幅が広がったと思います。韓国で会ったその友達たちは私にとって本当に大切な宝物となりました(^ ^)

Korea



国際地域学部 教授
佐々木 博昭

Hiroaki Sasaki

特別な取り計らいをいただき、教員生活も35年目となり、卒業目前です。現在、卒業に必要な単位を点検しています。海老ヶ瀬通いも長くなりましたが、苦しくても若いときの経験や苦勞が財産になるというのは間違いないさそうです。



国際地域学部 教授
福嶋 秩子

Chitsuko Fukushima

専門は言語学と英語教育です。言語の多様性と変化に興味があり、特に日本語の方言を研究対象にしています。身近なことばの中にある体系性やそれが変容するプロセスと一緒に探ってみませんか。

海外研修報告

韓国

国際地域学科 准教授 権寧俊

今年の海外韓国語研修は、「研修B・C(短期・中期)」は7人、「研修A(長期)」は14人が参加した。研修では韓国外国語大学において韓国語授業を受けながら、ソウル周辺の歴史遺跡を見学し、韓国文化体験を行なうなど、現地の生活や異文化に触れることで韓国についての理解を深める研修となった。また、韓国外国語大学の学生との交流会を設け、日韓の歴史や文化についての意見交換をする場となり、互いに友好関係を保つことで、若い世代による未来の日韓関係を築くことになった。



韓国外国語大学



韓国外国語大学にて集合写真

Korea

China



中国

国際地域学科 教授 後藤岩奈

海外中国語研修は8月28日から9月23日まで行われました。北京では歴史文化遺産を見学し、ハルビン市の黒龍江大学(黒大)では、午前中は語学研修、午後は市内の博物館、極楽寺、731部隊跡などを見学したり、黒大の学生と「相互学習」をしました。9月中旬、日中関係が緊張しましたが、お互いの国の言葉や文化を学び、また教える者同士のつながりは、たとえ政治の風波があろうとも、決して揺らぐことはないのだと確信しました。



米国

ミネソタ海外英語研修参加者

国際地域学科 2年 小寺直子

この研修で特に楽しかったのは、家族や現地の人とのふれあいです。異文化の中で生活するのに、日本人として混乱することも多くありましたが、お互いに意思を伝えること・受け入れること、そういった異文化コミュニケーションが大切であることを再確認できました。また、現地の様々な生活様式や歴史、文化にふれることで、有意義なときを過ごすことができました。この経験は今の学習においても生活においても役立っています。



国際地域学科 2年 小山実緒

ミネソタ研修は、勉強、ホームステイ、アクティビティ、全てにおいて毎日充実したものでした! 大学での講義は毎日違うゲストスピーカーによる様々な内容で、アメリカやミネソタの文化など、とても興味深いものばかりでした。私はまた夏休みにもホストファミリーを訪ね、研修中とは違った夏のミネソタを体験してきました。彼らは私を歓迎し、家族の一部だと言ってくれました。この研修で私は沢山のかけがえのないものを得ました。



USA



国際地域学科 教授
渋谷 義彦

Yoshitako Shibuya

私の専門は英文学で、特に劇作家ウィリアム・シェイクスピアの詩と演劇を中心に研究しています。授業では、「比較文学」関連科目において、彼の演劇が翻訳・映画・舞台を通して日本でのどのように受容されているかを論じています。



国際地域学科 准教授
田口 一博

Kazuhiro Taguchi

地方自治の現場に在籍しながら研究に関心を持ち、大学院入学。修了後大学教員の兼務を経て地方自治のシンクタンクに転職。新潟県立大では行政学や地方自治法を担当しています。年間30回以上の全国講演で新潟県立大宣伝中!

4年生

ゼミ紹介

Seminar
introduction



「北京の伝統的地域の変容と人々の生活」を共通テーマに、今年は3人が卒業論文を作成し、ほかに2人が中国に留学中です。8月後半の2週間、この5人が北京に集まって、毎日汗だくになって町を歩き回り、ヒアリング調査を行いました。北京は高層ビルの林立する現代都市ですが、古い街並みや何十年も変わらない庶民の暮らしも残存し、北京らしさを醸し出しています。学生たちは、それぞれ独自の視点から、この北京らしさの中身を追究しています。



国際地域学科
櫛谷ゼミ

子ども学科
斉藤美和子
ゼミ



音楽の要素の中でも「リズム」に焦点を絞り、子ども達がいかにしてその感覚を獲得していくかを探っています。近隣の保育園のあるクラスに協力をお願いして定期的に訪問し「リズムあそび」を試みしていますが、回を重ねる毎に高まっていく子ども達の興味・挑戦意欲にゼミ生は刺激を受けています。何より「カホン(楽器の名前)のおねえさんの日」と予定表に書き込んで訪問を心待ちにしてくれていることに励まされているようです。卒業後、この研究を継続し、さらに深めていくよう期待しています。

(子ども学科 佐藤絢香(4年))



国際地域学科
板垣ゼミ

私のゼミは佐渡島をフィールドに設定しています。現在は来年度の準備のために佐渡の国際交流をテーマとしてプレゼミを行なっています。今年9月には観光開発という視点から学生と佐渡島を旅行しました。佐渡島には豊かな自然、貴重な文化がありますが、残念ながら人口減少、とくに若年層の人口減少が著しいところです。ゼミ生には、自分の眼で佐渡の現状を見て、島の魅力を引き出し、島を元気づける方策の研究を期待しています。



健康栄養学科
佐藤ゼミ

『えみけん』では佐藤恵美子先生のご指導の下、調理科学の観点からゴマ豆腐のテクスチャー研究ならびに新潟県の食文化について研究をしています。テクスチャーとは食感のひとつで、ゴマ豆腐の硬さ・粘りなどの測定と官能検査を実施しておいしさを科学しています。最近では米粉を添加したゲル、パンやパスタなどのテクスチャー研究も行っています。

食文化では新潟県の様々な行事食を調べ、特に正月料理についてまとめています。

(健康栄養学科 永井 紘太(4年))

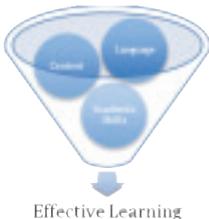


授業紹介

Project English

国際地域学科 講師 伊與部 ベサニー

『Project English』では、「Language(言語)」、「Academic skills(学術スキル)」、「Content(専門知識)」の3つの側面を結びつけて、総合的かつ実践的に英語を学習します。私が担当する『Project English』では、Intercultural Communication(異文化コミュニケーション)のテーマを扱っています。そのテーマについて、インタラクティブな授業を行うことを心がけています。語学の勉強のみならず、学期を通して特定の専門科目に関する様々な課題をこなし、英語による学習能力の向上を期待できます。



中国語 I

国際地域学科 教授 高久由美

『中国語I』はリレー式の授業です。週2回ずつ半年間学ぶことにより、短期で集中して中国語の基礎を身につけることができます。授業のポイントは、DVD教材の活用です。とある大学のキャンパスを舞台にしたブチドラマが教材です。授業が最も盛り上がるのは、受講生の皆さんがドラマの登場人物になりきって実演する、中国語アテレコです。楽しみながら日常会話を実践することを通じて、中国語の正確な発音や基礎的な文法を学んでいます。



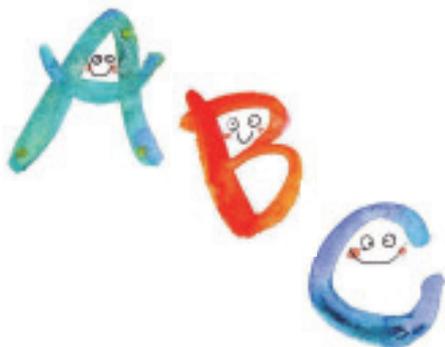
実習・実験紹介

国際地域
学科

中等教育実習

国際地域学科 講師 茅野潤一郎

教育実習では大学で学んだ知識や技能を実際の教育の場で応用し、経験豊かな現場の教師の指導を受けながら、教育者として必要な諸能力と基本姿勢を学びます。国際地域学部では教職課程受講者は3年次後期および4年次前期の2回にわたり、計4週間の教育実習をおこないます。短い期間ではありますが、実習生は生徒の人格形成に関わるという責任を自覚しつつ、自分自身の人生を見つめ直すきっかけがえのない経験を積みまます。



こども
学科

相談援助実習 (社会福祉士)

社会福祉士の実習では、児童、障害者、高齢者等の福祉施設において相談援助の実際について学びます。この実習を通して学生たちは大きく成長する姿を見られます。その一つを紹介いたします。
(相談援助実習担当教員 沼野みえ子)

子ども学科4年 永井 緑

私は4年生の春と秋に特別養護老人ホームで相談援助実習をしました。生活相談員の仕事を中心に、直接利用者の方とかかわり、介護も体験しました。それらを通して、利用者の方を理解するには心身の状態や医療の面、家族との関係など、様々な角度から把握する必要があり、それがその人に合った支援を考えることにつながっていくのだと実感しました。施設に入所している高齢者をひとくくりで捉えるのではなく、一人ひとりの生活・生き方に沿った支援をしていくことの大切さと、やりがいを感じることで、社会福祉士という仕事への関心がさらに深まりました。

健康栄養
学科

食品学実験

健康栄養学科 准教授 立山 千草

身近な食品に含まれる成分や栄養素の定性・定量分析をおこなうなかで、これらの物質の構造や化学的特性について理解を深めます。実験過程を通じて化学分析の技術を習得するとともに、科学的視点から物事を捉え、考察する能力を養います。栄養素は食品から供給されますが、食品の多くは栄養素のみで構成されているわけではありません。食品を化学的にみると種々の化合物の混合で成り立っています。果てしない食品の謎へせまります。なお、実験科目である「食品学実験」は、神山助教・永野助教を加えた3名による体制で綿密な指導をおこなっています。



@第二体育館

国際地域学科2年 酒井麻由

みなさんこんにちは!! 私は第三輪 連花祭では、県立大学の第二体育館で催すステージイベントの企画・運営を行いました。

ここでは毎年、軽音サークル・アカベラサークル・ダンスサークル……など、たくさんの団体の皆さんが今まで練習を重ねてきた成果を発表します!! 今年は昨年より出場希望団体が増え、取りまとめるのが大変でしたが、役員や実行委員の皆さんのおかげでスムーズに進行することができました。

また今年初の企画として、連花祭の最終企画 連花繚乱 で、みなさんと「栄光の架け橋」を合唱しました!! このパフォーマンスはぎりぎりまで不確定な部分もありましたが、実際にやってみると、とてもうまくいきました!! 中には感動して泣いてくれる方もいて、やってよかったと思います。他にもたくさん伝えたいことはありますが、それはまたの機会に!



模擬店 @中庭

健康栄養学科2年 鳥羽宏司

皆さんお待たせしました。ついに、どんぢやら部は開発しました。そう、「お好み焼きンヌ」(一部地方では「MOCOのみ焼きンヌ」)です! 去年もお好み焼き屋をした私達、今年はおしゃれなメニューも作ろうと、チーズ&特製ミートソースで作った「ンヌ」と「お好み焼き」を販売しました。

そして勝負の日曜日! さあ〜今日もがんばり……豪雨!!! おかしいこれ? そして、雨にも負けずに仲間の将平君と二人で怒涛の客引き! 「やっぱりお好み焼きといえば……この匂い、いや音! (ほぼ同時)」

そして見事な売り上げ! みんなありがとう。模擬店をするのは大変やけど、やっぱり楽しいな〜。この記事を読んだ皆さん! 来年も来て下さいね。

UNP-Days! @1号館B棟

国際地域学科1年 南波和希

初めての連花祭、私はUNP-Days! という学校紹介企画に携わらせていただきました。連花祭に来てくれた方たち、学生の皆さんにもっと県立大学の事を知ってもらいたい! という思いで準備をしました。

1年生は全校アンケートを行い、東区オススメマップや県大七不思議などを作りました。当日、楽しそうに見てくれる人たちを見てとても大きな充実感を味わうことができました。

この企画はみんなでつくりあげたもので、県立大学のアットホームさ、学生みんながいきいきしているのを表していたように思います。今年の連花祭に来た方も来れなかった方も、来年の、よりグレードアップした連花祭へぜひ来て下さい!



第三輪 連花祭

平成24年
10月27日(土)・
28日(日)

4学年だよ! 全員集合!

~ケン民のみなさまケン短はケン大になりました!~

大盛況だった連花祭の裏で、実は、けっこうスゴイことをしていた人達がいまして! 今回は第三輪 連花祭 開催にあたって、表には出なくとも長い時間と手間をかけて準備してきた裏方さんたちに注目してみました。



新鮮な体験



まずご紹介するのは、国際地域学科1年 堀場万生さんです。

Q1. 今回の連花祭準備では何をしましたか?

A. 連花祭のポスター・パンフレット作成に関わりました。その他にも、本学エントランスで飾られたイラストやステージの看板作製や、大学紹介企画UNP-Days! のお手伝いもしました。

Q2. 具体的にはどのようなことをしましたか?

A. そうですね。パンフレットでは、編集後記「連花新聞」の構成をしました。自分で考えたレイアウトが印刷会社さんの手によって実際に作っていただいたのには感動しました。

Q3. 連花祭の準備を通して、どんな所にやりがいを感じましたか?

A. うーん……。協賛やラジオ出演etc……。今までにやったことがないものばかりで、いろいろと学びました。あと、祭特有の雰囲気というか、人との距離を近く感じました。全然知らない人とも、たくさんしゃべれたんですよ!

Q4. やり終わってみて一言

A. やっぱり達成感があります! 作ったイラストや看板を見て、「すごいね!」って言ってもらえるのも嬉しかったですね。

挑戦

次にご紹介するのは、国際地域学科3年 伊藤友貴さんです。

Q1. 今回の連花祭準備では何をしましたか?

A. 連花祭のメインイベント、UNP 春武闘会のイベント長をやりました。

Q2. UNP 春武闘会とは、どんなイベントですか?

A. 今回の連花祭で初めてやるイベントで、大まかに言う「各部門ごとで争い、県大生の中で一位を決めよう!」というものですね。争う部門は知力・体力・衣装・芸術の4つです。

Q3. 具体的にはどのようなことをしましたか?

A. うーん、そうだなあ。どんなイベントにするか実行委員内で話し合ったり、まとめたり、次の会議の進行を考えたり。特に夏休みの終わりはやること多くて、大変でした。あと、最初の参加者募集のときは7人しか集まらなかったけど、いろいろと実行委員の中で反省し、それらを実践したら最終的には30人が集まってくれたんです!

Q4. UNP 春武闘会のイベント長として、どこにやりがいを感じましたか?

A. 準備していくうちにだんだん形になってきて、自分でも「この企画は楽しそうだ!」って思えるようになったんです。最初はまだ曖昧で、どうすればいいのかわからなかったけど。(笑)

Q5. やり終わってみて一言

A. 参加者も実行委員も、楽しかったって言ってきて嬉しかったです。それに何より、自分自身も「楽しい!」と思えました! 反省点はあるけど、今回の連花祭の思い出の一つになってくれたらと思います。やってよかった!



子ども学科 教授 戸潤 幸夫

Yuki Tomita 子どもは、柔軟な発想や豊かな感受性をもっています。造形活動を通してそれらの能力を十分に発揮し、自分の思いや考えを自己表現できるよう、環境設定や魅力ある題材、夢中になれる活動の展開方法等を研究しています。



子ども学科 准教授 沼野みえ子

Miko Murnano 一つの生命が誕生するのは奇跡に近い確率です。生まれてきただけですごく。だから偉くならなくて、お金持ちにならなくて、自分を精いっぱい生きているだけで素敵! 自分を大切にしてほしいな。保健関連の授業を担当しています。



健康栄養学科 教授 田邊 直仁

Naohito Tanabe 学生時代は大学のオーケストラに入っていました。教室より練習室にいる時間の方が長かったような……。今はそのOBオケで月1回程度の練習と年1回の演奏会が楽しみです。入場無料なので是非聴きに来て下さい。



健康栄養学科 准教授 太田 優子

Yuko Ota 「食とは人を良くすることなり」学生時代の恩師の言葉に導かれながら、大学人としてQOL (Quality of Life: 生活・人生の質など) を高める食生活の支援方法を新潟県内の対象者の協力を得て、模索している日々です。

学生の活動



凧足柵（ぬたりのき）探索プロジェクト

私は東区にあったとされる凧足柵に関する様々な事業に関わらせていただき、その中でも凧足柵スイーツの考案とまんなかフェスタでの学生企画の二つの事業に深く関わらせていただきました。凧足柵スイーツは健康栄養学科の学生が工夫してカメさんタルトなどを考案し、学生企画では凧足柵歴史体験広場という子供向けに凧足柵について知ってもらえるようなイベントを行いました。東区民が凧足柵の存在を広く知っていただけたらと思います。

(国際地域学科 2年 小出真生)



「にいがた総おどり」に初参加!

9月17日(月・祝)、学生有志で結成した「新潟県立大学～UNP爆誕～」チームが、県内最大級の踊りのイベント「にいがた総おどり」に初参加しました。当日は最高35℃を超える残暑厳しい中、万代シティ、ふるさと村、本町の3会場において、総勢約60人ももの学生たちがパフォーマンスあふれる熱い演舞を披露し、各会場を盛り上げました。

(事務局 宮尾修一)



本学学生・教職員が地域の清掃活動に参加しました

本学地域連携センターの呼びかけで、7月7日(土)に大学周辺の一斉清掃に参加しました。オープンキャンパス前に大学周辺をきれいにして!の呼びかけで参加した学生・教職員は、大形地区の関係団体や大形中学校生徒会、PTAの方々と協力して清掃を行い、約1時間後には多くのゴミを回収することができ、大学周辺が美しくなりました。

新潟県立大学は地域づくりに貢献する大学を目指し、今後も地域と連携した活動を積極的に続けてまいります。

(事務局 宮尾修一)



国際地域学科 准教授
ジョン アダムソン

John Adamson

— Hi, I've been teaching at UNP since 2009. Before, I taught in Nagano and Hiroshima and also in Thailand, Germany and the U.K. where I come from. I like encouraging students to use SALC which I think is important for university life. My research focuses on academic publishing and interdisciplinarity and I do senior editing for various journals. Finally, I enjoy badminton and cooking. I look forward to meeting you!



国際地域学科 講師
藤井 誠二

Seiji Fujii

大山コレクションを
紹介します。

『僕の村は戦場だった』(タルコフスキー監督)や『尼僧ヨアンナ』(カワレロウィッチ監督)などの文芸的で重厚な映画から娯楽向けのSF特撮映画まで、門外不出の時期もあった旧ソビエトや東欧を中心とする映画のコレクションです。他では見ることが難しい貴重な映画も含めた258本は、個人で収集された大山博様から寄贈いただいたもので、関連の図書や映画パンフレットも含めての「大山コレクション」がAVコーナーの一角にあります。

(新潟県立大学 図書館)



問題を見つけてみよう♪

大学というところは、何と言っても学問をする場所です。学問で一番大切なのは、問題を見つけることです。ですが、これが一番難しい。全方位にアンテナを立てて、ネタを探しましょう。そこで、本の紹介です。

一冊目は、森繁拓真『となりの関くん』(メディアファクトリー)。〈日本一売れる「授業サボり漫画」!!!〉だそうです。ただ今3巻目まで刊行中。二冊目は、ヤマザキマリ『テルマエロマエ』(エンターブレイン)。これは映画にもなったからみんな知ってるでしょう。作品中にラテン語の会話がぞろぞろ出てくるマンガなんて、前代未聞です。現在第5巻まで刊行中。英語以外の言語も勉強しましょう。

でも、見つけた問題を料理するには、それなりの技量というものがが必要です。大学生になりたかったら、評論文くらい読めないか。で、最後のおすすめは『高校生のための現代思想ベーシック ちくま評論入門』(筑摩書房)。

さて、問題はみつかったかな？

(国際地域学科 教授 石川伊織)



本学に赴任してきて今年で4年目になります。人生初の卒業研究を担当しています！結構楽しくやっています。専門は公共選択という政治的な問題を経済学的に分析するという分野です。自分自身の研究も頑張ります!!



国際地域学科 講師
ン・チン・ロン、パトリック

Ng Chin Leong, Patrick

皆さん、こんにちは。
私はシンガポール出身で、新潟県立大学で教えて4年目になります。とても楽しく仕事をしています。
新潟県立大学は、教育・研究の環境が整っています。
私は次のコースを担当しています。Core English, Speaking,

Business English (上級者向け)、Project English (多文化リテラシー)、及び海外語学研修プログラム(シンガポール)。
キャンパスに来たらどうぞ気軽に話しかけてください。

思い出の旅先

WHO 世界保健機関 (Switzerland)



健康栄養学科 教授 **渡邊 令子**

GenevaのWHOを訪れたのは、1990年代のある夏の終わりでした。Genevaの公用語はフランス語であることは理解していたものの、ホテルのフロント、そしてCornavin駅のインフォメーションセンターで片言の英語でWHOの場所を幾度尋ねても、わかりません。当時、Geneva市内のバス停などでは、英語は全くとっていいほど通じませんでした。翌日もインフォメーションセンターに行き、昨日とは違う担当者にしつこく尋ねたら、「オー、OMS?」と返ってきました。WHOはフランス語では頭文字をとってOMSだったのです。WHO本部の玄関には、5カ国語で記載されていました(残念ながら日本語はありません)。この建物の中では、受付から片言の英語でOKでした。聞こえてくる職員の会話もちろん英語、やはり世界共通語は英語です。

約半日を過ごした思い出深い体験です。

研究成果の発信は英語でないと評価されない時代になりました。毎年、「今年こそ、英語力アップ」と思いつつ、自らの英語力(特に書く・話す能力)に歯がゆさを実感しているのが現状です。まずは学生時代に機会を見つけて国外に飛び出し、国際共通語「英語」の必要性を認識することをお勧めします。自己投資をして視野を広げるとともに、自らの考えを論理的に表現する日本語力も磨いてください。



子どもの心を育てる スポーツ教育プログラム



子ども学科 講師 **渋谷 崇行**

「子どもの心を育てるスポーツ教育プログラム」はアメリカを中心に開発・実践されています。私は平成24年の夏にサンフランシスコを訪問し、その指導プログラムを視察してきました。また、フィリピン・セブ市も訪れて、現地の貧困層児童に対して「子どもの心を育てるスポーツ教育プログラム」を実施する準備を行ってきました。

グローバル化と市場としての東南アジアが注目される現代において、日本の知的財産を海外に持ち出し、それを基に国際貢献を行うことは益々重要になってきます。国際化の時代に存在感を示せるような実践的研究を、新潟県立大学は行っています。



NEW OPEN!

新学生食堂が オープン しました

2012年9月末に新厚生棟(ばれっと)が完成し、10月1日から食堂が営業を開始しました。

この新厚生棟(ばれっと)は明るく開放的なガラス張りの建物で、1階はポップな色合いを基調とし、2階は落ち着いた空間をイメージしたデザインとなっています。席数は従来の食堂と比較して約2倍増の303席となり、購買も併設されています。メ

ニューはビュッフェスタイルを中心に、丼物、麺類も一部リニューアルされて、学生たちの新たな憩いの場が誕生しました。

オープニングセレモニーでは吹奏楽部の演奏とテープカットが行われ、食堂内はオープンを心待ちにしていた学生たちで賑っていました。

(事務局 宮尾修一)



Satellite 東京サテライト

World Association for Public Opinion Research (WAPOR) 2012 (世界世論調査学会)

2012年6月14日~16日まで香港にて開催
されました。



学長とプリンストン大学アイケンベリー教授らによる 日米政策提言に関する有識者会議

2012年11月2日に東京(霞ヶ関・日本国際
問題研究所)にて開催されました。





編集後記

冬本番を前に、新潟県立大学広報誌第8号を発行する運びとなりました。今回は、秋の大きなイベントである学園祭(連花祭)や、海外留学、海外研修についての記事を載せております。また、学生生活の総仕上げとなるゼミの紹介や実習・実験の紹介なども織り込みました。授業紹介、教員の横顔も引き続き掲載しております。皆様に本学を知っていただくきっかけとなれば幸いです。なお、お読みいただいたお気づきの点等ありましたら、ご意見をお寄せください。

連絡先

新潟県立大学

〒950-8680
新潟市東区海老ヶ瀬471番地
TEL:025-270-1300
FAX:025-270-5173
E-mail:unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト

〒113-0024
東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
TEL:03-5803-6955
FAX:03-5803-6971
E-mail:unptokyo@unii.ac.jp